




收受年月日	議長	事務局長	書記
28.8.31			
第 94 号			

平成 28 年 8 月 31 日

埴町議会議長 大縄武夫 様

経済常任委員会委員長 鈴木安次



所管事務調査報告書

本委員会は、所管事務の調査を下記のとおり実施したので、埴町議会会議規則第 77 条の規定により報告する。

記

1 調査事件

山林、河川の荒廃及びイノシシ被害状況調査

2 調査の経過

- (1) 実施日 平成 28 年 6 月 30 日
- (2) 参加者 経済常任委員 (7 人)、事務局職員 (2 人)
- (3) 説明員 まち振興課長、まち整備課長ほか担当職員
- (4) 調査事項

松くい虫の被害対策の状況調査

有害鳥獣 (イノシシ) 被害防止対策の状況調査

台宿沢荒廃状況調査 (台宿一区の陳情から)

3 調査の結果

1 松くい虫の被害対策の状況調査 (伊香地内山林)

松くい虫の被害状況及び伐倒駆除の状況をまち振興課課長他担当職員の説明を受けた後に現地に入り調査した。

以前は、航空散布と伐倒駆除を併用し対応してきたが被害木の発生は続いていた。震災以降航空散布の補助金が打ち切られ、薬剤散布を行わなくなつて以降松くい虫の被害木は大発生している。伐倒駆除は予算も少なく松くい虫の被害対策としては焼け石に水の状況である。航空薬剤散布の再開を促す声もあるが、もっと視点を変えて対策を練る必要があると思う。

「木の町はなわ」のキャチフレーズを掲げても、国道や県道から見る山が松くい虫の被害木で赤くなっているのは、人々に安らぎを与える里山とはなりえない。松くい虫の被害木は焼却処分するのが手っ取り早い方法であるが、今の所決め手はない。せめて木質バイオマス発電の燃料になるチップ等に加工して販売する方法はないものであろうか？岡山県真庭市のように山主が木を切ってチップ工場に持ち込んで販売できる方法があれば山の荒廃防止にもなり理想的である。

また、いったん処理を施した年月の経った被害木が河川に流れ出していることがある。早急な対策が必要である。

2 有害鳥獣（イノシシ）被害防止対策の状況調査（台宿地内農地）

電気牧柵を設置した水田を視察し、まち振興課課長他担当職員の説明を現地において受けた。

平成 28 年 3 月に東白川郡 4 町村により「東白川地域鳥獣被害防止対策協議会」を発足させて対策に当たっていることは評価するが、遊休農地の草刈りやイノシシの餌になる野菜類の除去等が被害防止対策になることを町民に周知することも大切である。なお、草刈機は肩掛け式や背負い型の草刈機が主流であるが、トラクターに装着するハンマーナイフモア（ロータリー型）アーム式ハンマーナイフモア（ガードレール越しにも草刈りができる。）等高額

の機械があるので除雪機同様に補助事業も考えるべきではないか。また、駆除隊員の高齢化や人数等も減ってきているので駆除隊員を増やす意味でもワナ等の免許取得にも補助金を考えるべきではないかとの意見が出た。（すでに天栄村では実施しているとのことであった。）

3 台宿沢荒廃状況調査（台宿一区の陳情から）

毎年陳情項目に上がっている台宿沢の荒廃状況をまち整備課長、担当職員の説明を聞き現地調査をした。

台宿沢は 200m ほどがいまだに未整備である。普段水量は少ないが急峻な川であるので大雨が降ると危険である。砂防指定地でもあるので県当局に早期着工に向けて働きかけていく必要がある。

(3) 委員報告書

別紙のとおり

氏名	小峰由久		月日	H28.7.8
調査等 名称	経済常任委員会			
調査等 の日時	H28.6.30	場所	伊香、台宿	
調査等 の内容	1. 松くい虫被害の現状と対策			
	2. いのしし対策の現状			
	3. 台宿区よりの陳状案件の視察			
意見 感想	1. 被害に対策が追いつかぬいのが現状 松くい虫と戦うのか、嵐が過ぎざるのを 待つのか、被害危険地の現状をよく研究し 対策を練る必要が来ていると思う			
	2. 侵入対策を種々見て来たが、松くい虫 と違い「金を掛ければ」対策と効果が 現れるという事、又駆除についても成果 を見る事が出来るという事で徹底的な 駆除方針を打ち出す価値があると思い			
	1. 2. とちらも行政を越えた問題であり 国、県、他町村との連携が大事と思う			
	3. 台宿地区の土石流対策であるが すでに何年にも渡り町への陳情をくり返 して居るとの事だが、他地区に於て			

同じ様に繰り返されて居る問題であり
根本的な陳情への対処方針の見直しが必要
であると思う。

まず町で出来る事、国県への要望事項の仕分け
を行い、一覧表を作り各行政区に公表し、町
の対策、方針を明らかにし毎年続けられる
陳情の繰り返しをなくし、緊急性、予算との
関係の利解を計り、優先順位を明らかに
して将来への見通しを立てられる様にすれば
毎年続けられる陳情の非効率性を半減出来る
のではなかろうか。

收受年月日	議長	事務局長	書記
28.7.8	委員長	(藤田)	()
第 号	(鈴木)		

調査・研修等報告書

氏名	小林達信		提出年月日	平成28年7月8日
調査等名称	山林等の荒廃状況と調査(冠木)の調査			
調査等の日時	平成28年6月30日	場所	現地委員会議室	
調査等の内容	1.伊香地内山林松くい虫の被害対策の状況			
	2.宿地内農地有害鳥獣(猪)被害防止策の状況			
	3.宿地内河川(宿沢)荒廃状況			
意見感想	松くい虫の被害は甚大で現地で状況を見ても変化のことが多く実感出来た。			
	マツノマダラカミキリ蟻の駆除だけが無理でマツノカイ線虫の効果的な対策が待たれる			
	猪対策には電牧が有効であるが人間も畑に作物を残さないと説明で納得した。			
宿沢状況は私の見方ではそれほど緊急性があるようには思わなかった。				

收受年月日	議長	事務局長	書記
28.7.8	委員長	藤田	
第 号	栗		

調査・研修等報告書

氏名	吉田 克則		提出 年月日	平成28年7月7日
調査等 名称	経済常任委員会所管事務調査			
調査等 の日時	平成28年6月30日 9:00~	場 所	現地及び委員会室	
調査等 の内容	<p>現地調査</p> <p>松クイ虫の被害対策状況</p> <p>有害鳥獣（イノシシ）被害防止対策状況</p> <p>台宿地内河川荒廃状況</p>			
意見感想	<p>松クイ虫の被害対策状況</p> <p>被害状況は甚大。被害木の駆除措置薬剤処理等を対策しているが撲滅するには難しいと感じた。経費と時間が必要か。</p> <p>有害鳥獣（イノシシ）被害防止対策状況</p> <p>牧柵設置を町の補助を受けて被害防止対策をしているところを現地確認した。柵は広い土地に設置されていて電線も長距離。線下の除草が大変との説明を受ける。イノシシを一箇所に集め駆除する方法を調査検討することを提案したい。</p> <p>台宿地内河川荒廃状況</p> <p>台宿区から改修工事の陳情が出されている。河川であるので県と改善策を協議して進める方法が最善かと思われた。</p>			

埴町議会

議長 委員派遣 28 8 31	調査 ①	研修 ②	報告 ③
第 号	①	②	③

平成 28 年 8 月 31 日

議会議長
委員会委員長

提出者 高 縁 光

派遣目的 (調査等 名称)	経済常任委員会被害現地視察		
派遣の 日時	① 平成28年6月30日 午前 9時	派遣先 (場所)	① 伊香地内山林 9時10分 ② 台宿地区農地 10時00分 ③ 台宿地内河川 10時40分
内容	<p>① 伊香地内山林(松くい虫の被害対策の状況 (まち振興課)ほか)</p> <p>② 台宿地内農地(有害鳥獣(イノシシ)被害防止対策 (まち振興課)の状況)</p> <p>③ 台宿地内河川(台宿沢荒廃状況(台宿一区の陳情あり) (まち整備課長)ほか)</p>		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>① 松くい虫について(今後松くい虫による被害が継続 と思われる駆除措置についてシートで密閉する 説明がありシートが自然に戻るシートが使用されて いることを知り勉強になった今宿地域の道路に近 所に有る松くい虫による倒木が心配である。</p> <p>② 有害鳥獣(イノシシについて) イノシシ捕獲について説明を受け努力されていることが 分かり、また「また」捕獲の努力が必要と思われる1声の 方も区学位の事業に参加することを知り、今後も頭数 を減らさなければならぬと思われる。</p> <p>③ 台宿沢荒廃状況について 最近の雨量は計り知れないものがあり温暖化の 結果だと思われる整備され安心安全になること を望む。</p>		

議員派遣 調査研修等報告書

議会議長 大縄 武夫 様

收受年月日	議長	事務局長	書記
28.7.8	委員長		
第 号	平成28年5月9日(月)		

提出者 青砥 與蔵

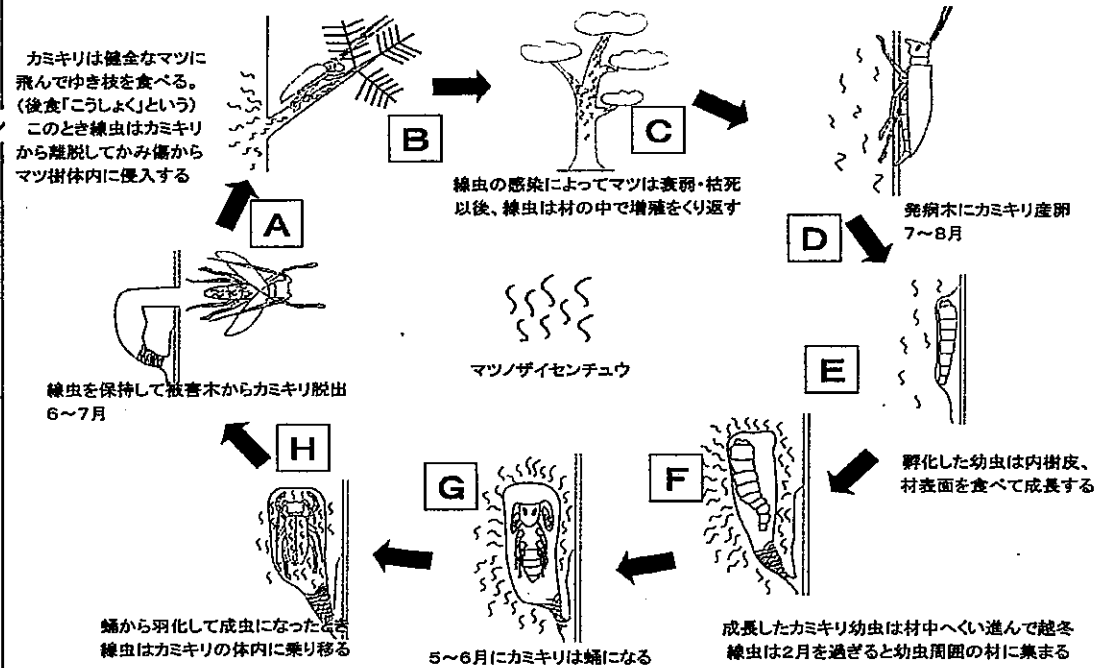
派遣目的 (調査等 名称)	視察研修	伊香区、松クイ虫被害視察 台宿区、猪被害視察 台宿区、台宿川・河川侵食視察	
派遣の日時	6月30日	派遣場所	町内
内容	6月30日(木) 伊香区、松クイ虫被害視察		

現状
対策

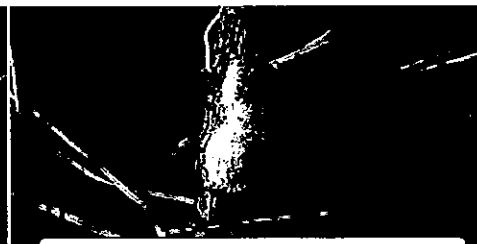
明治38年九州で確認以来、北上を続け、現在青森・北海道を除く全国に被害が広がる。埴町全域で被害が確認、対策(空中・地上薬剤散布、樹幹薬剤注入、駆除処置)を講じています。完全処理ができず、今後も周囲の環境に考慮しつつ、爆発的な発生を抑えりに過ぎない。線虫の原産地、アメリカでは、大きな被害がなく、日本での対策の模範がありません。線虫だけに効く薬剤ができるまで、今後共、今までの対策を続けなければならない。

- 対策1 空中・地上薬剤散布H・A 羽化～飛び立ち 5月～6月
- 対策2 樹幹薬剤注入 E・F 越冬時期 12月～3月
- 対策3 駆除処置 E・F 越冬時期 10月～5月

カミキリムシ
線虫年間
サイクル図



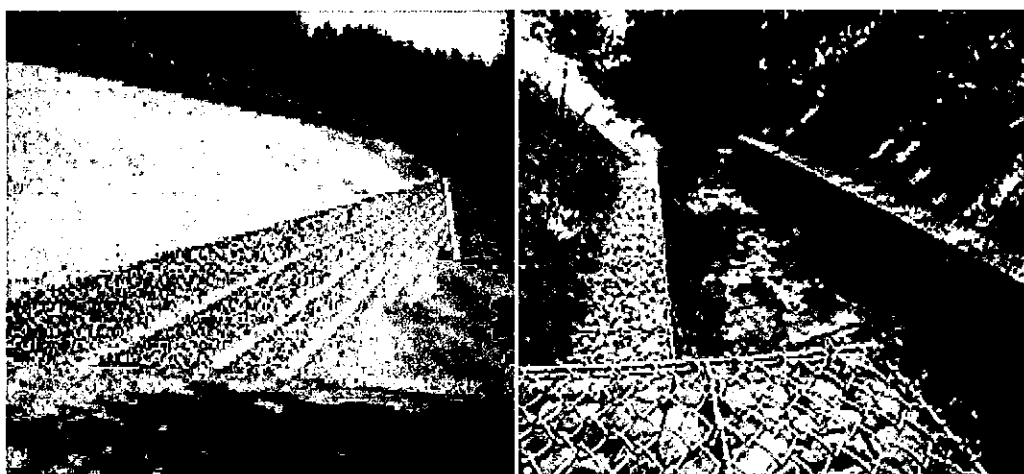
後食する成虫



後食直後のマツ枝

内容	6月30日(木) 台宿区、猪被害視察
現状 対策	猪が猪豚化し多産系に、又、畑の収穫の残りをそのままにする生活環境が、増殖に反映している。狩猟者の減少なども増殖要因として大きい。 猪の移動距離は20kmと広範囲、臨町村との対策も重要です。 狩猟者を増やす、狩猟頭数を増やす。 放射能影響による猪肉の保証、狩猟者負担の補助などが必要です。

内容	6月30日(木) 台宿区、台宿川・河川侵食視察
現状 対策	川底が侵食され谷底が深くなり、近くの畑の土手が崩落している。 川底を上げ、崩落を止める工事が必要です。 蛇籠による処置が、環境を変えない工事と考えます。 川底を2000mm上げる、脇は4段上げ、土地を2000mm幅の地権者、無償提供による確保。



議員派遣 委員派遣	收受年月日	議長	事務局長	書記
	28.7.8	委員長	報告書	
	調査研 修等	第	号	
				平成28年7月8日

様式 1

議会議長
委員会委員長 様

提出者 大縄武夫

派遣目的 (調査等 名称)	経済常任委員会所管事務調査		
派遣の 日時	平成28年6月30日 9:00~	派遣先 (場所)	伊香、台宿、委員会室
内容	山林及び河川の荒廃並びにイノシシ被害状況調査 1 松くい虫被害状況調査 2 イノシシ被害防止対策調査 3 台宿沢荒廃状況調査		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>1 松くい虫被害状況調査 薬剤散布を取りやめた結果、松くい虫の被害が拡大していると言わざるを得ない。手入れの必要性を感じるが、その経費を考えると難しい状況である。</p> <p>2 イノシシ被害防止対策調査 H27は約300頭の捕獲をし、電気牧柵の設置など対策も講じているが被害は減っていないという。東白川郡で広域的に取り組む協議会が今年発足した。その取り組みに期待したい。</p> <p>3 台宿沢荒廃状況調査 現場は、人家からは若干離れたところに位置している。緊急性は少ないと思われるが、大雨などで洗掘が進んでいる。上流に砂防ダムが設置されており、一定の措置はされているものの状況を注視していくべきと思われる。</p>		